

田岡化学工業株式会社
2025年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2025年5月20日（火）10時～11時00分

当社説明者： 取締役社長 佐々木 康彰
取締役副社長 事業支援室長 岩崎 明

[説明内容]

5月20日に開示した全31ページのPDFに沿った説明。

https://www.taoka-chem.co.jp/ir/note/202503_briefing.pdf

[質疑応答内容]

<25年度業績について>

質問1 精密化学品事業の売上が大きく伸びる予想となっているが、上期と下期でどのような見方をしているのか。また増収の背景について教えてほしい。

回答 顧客との間で年間出荷数量を協議中であるが、基本的には上期と下期で同水準の出荷数量となる見込み。
増収の要因は、顧客における在庫調整が完了し、実需見合いの出荷ができるようになったことによるものである。

質問2 樹脂原料を主体に売上が大きく伸びる一方、利益の伸びが低く見える予想となっている要因は何か。

回答 数量差が増益方向に働く一方で、新多目的工場の本格稼働に伴う償却負担ならびに人員確保やベースアップによる労務費増加などで固定費が相当程度増加する見込みである。また、24年度は交易条件の改善が増益に寄与したものの、25年度は同様の改善には至らない見通しとなっており、そのため利益の増加幅が一定程度に抑えられている。

<中期計画について>

質問3 中期計画では、樹脂原料とそれ以外の製品の貢献度はどの程度か。

回答 中期計画の最終年度における売上は400億円で、現状から100億円程度の増収を見込んでいるが、樹脂原料が中心である。新規開発品としては、生分解性・バイオマス可塑剤及び新規の受託製品などを見込んでいる。

質問4 中期計画の3か年において、新製品としてナノグラフェンは伸びてくるか。

回答 業績への貢献を期待している新規材料であり、探索・用途開発を継続し、少しでも早期に上市できるよう開発を進めていく。

質問5 中期計画最終年度において、どの程度の時価総額を想定しているか。

回答 中期計画は、時価総額を念頭に置くというよりもROIICを重視し、10%の水準に向上させることを目標として策定したものであるが、PBR1倍以上の達成は目標にしたいと考えている。

以上